

東証プライム 4631

DIC株式会社

2023年度第2四半期決算説明資料

2023年8月



Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**
Powered by the S&P Global CSA

MSCI  MSCI Japan ESG
Select Leaders Index

MSCI  MSCI Japan Empowering
Women Index (WIN)



DIC株式会社

ハイライト

2 Qの振り返り

売上高

5,153億円

前年同期比 Δ **1.2%**

営業利益

100億円

前年同期比 Δ **58.4%**

2023年の見通し

下方修正

配当は80円

- カラー&ディスプレイの顔料製品は主要市場である欧州における景気減速の影響を受けて出荷が減少した
- 様々な業界分野において需要の伸び悩みや在庫調整の動きが見られ、出荷数量が減少した。特にファンクショナルプロダクツでは、電気・電子やディスプレイを中心とするデジタル分野の製品の数量が減少した。モビリティを中心とするインダストリアル分野（※）では、サプライチェーン上の在庫解消に時間を要し、出荷の回復は弱かった。

※インダストリアル分野とは、自動車、鉄道、船舶などのモビリティ用途と建設機械、産業機械などの一般工業用途に係る製品分野の総称

- 塗料用顔料やプラスチック用顔料を中心とする顔料製品や、デジタルやモビリティ関連を中心とした高付加価値製品の出荷数量が減少した影響により、大幅な減益となった

- 需要の回復に当初計画よりも時間を要することから、売上高1兆600億円、営業利益250億円に下方修正
- 配当は中間50円、期末30円の年間80円に修正

当社グループの決算期は、海外子会社・国内会社ともに1月1日から12月31日までの12ヶ月を連結対象期間としています。当期は、2023年1月1日から6月30日までの6ヶ月間を連結対象期間として記載しています。

セグメント別 主要製品の四半期出荷数量の前年同期比推移

パッケージング&グラフィック（パッケージ用インキ、出版用インキ※）					
2022年				2023年	
1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月
+0%	△0%	△4%	△9%	△8%	△10%

- 物価上昇の影響を受け消費財の需要が低調となり、出荷数量が停滞
- 中国では緩やかな数量の回復が見られたが、米州および欧州では引き続き需要が低迷した

※新聞インキを含む

カラー&ディスプレイ（顔料製品※）					
2022年				2023年	
1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月
△5%	△11%	△19%	△28%	△18%	△17%

- 主要市場である欧州において景気減速に伴う需要減と、顧客による在庫抑制の動きなどから全般的に出荷数量が減少した
- ディスプレイ用顔料はパネルメーカーの在庫調整が終了したことにより、通常ベースへ回復

※2022年の前年同期比の計算からはC&Eを除外しているが、2023年からは計算に含めている

ファンクショナルプロダクト（パフォーマンスマテリアル製品※）					
2022年				2023年	
1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月
△6%	△6%	△5%	△10%	△15%	△10%

- 半導体市況の大幅な悪化により、エポキシ樹脂等のデジタル関連製品の出荷数量が減少
- モビリティを中心とするインダストリアル分野では、自動車生産の回復は見られたもののサプライチェーン上の在庫解消に時間がかかっており、全体としては低調に推移した

※上場子会社と22年7月に買収した広東TOD社、23年6月に買収したPCAS Canada社の数量は除外

連結損益計算書

(億円)	2022 2Q	2023 2Q	増 減	増減比	現地通貨ベース 増減比
売上高	5,214	5,153	△ 61	△1.2%	△5.5%
売上原価	△ 4,154	△ 4,206	△ 52		
販売費及び一般管理費	△ 820	△ 847	△ 27		
営業利益	240	100	△ 140	△58.4%	△58.3%
営業利益率	4.6%	1.9%	-		
金融収支	△ 9	△ 24	△ 16		
持分法投資損益	10	9	△ 1		
為替差損益	21	△ 10	△ 31		
その他	0	△ 3	△ 3		
経常利益	262	71	△ 190	△72.7%	-
特別利益	13	5	△ 8		
特別損失	△ 35	△ 23	11		
税前利益	240	53	△ 187		
法人税等	△ 88	△ 40	48		
四半期純利益	151	13	△ 138		
非支配株主に帰属する四半期純利益	△ 7	△ 3	4		
親会社株主に帰属する四半期純利益	144	10	△ 134	△93.1%	-
EBITDA*	474	328	△ 146	△30.8%	-

*EBITDA：親会社株主に帰属する四半期純利益＋法人税等合計＋支払利息－受取利息＋減価償却費＋のれん償却額

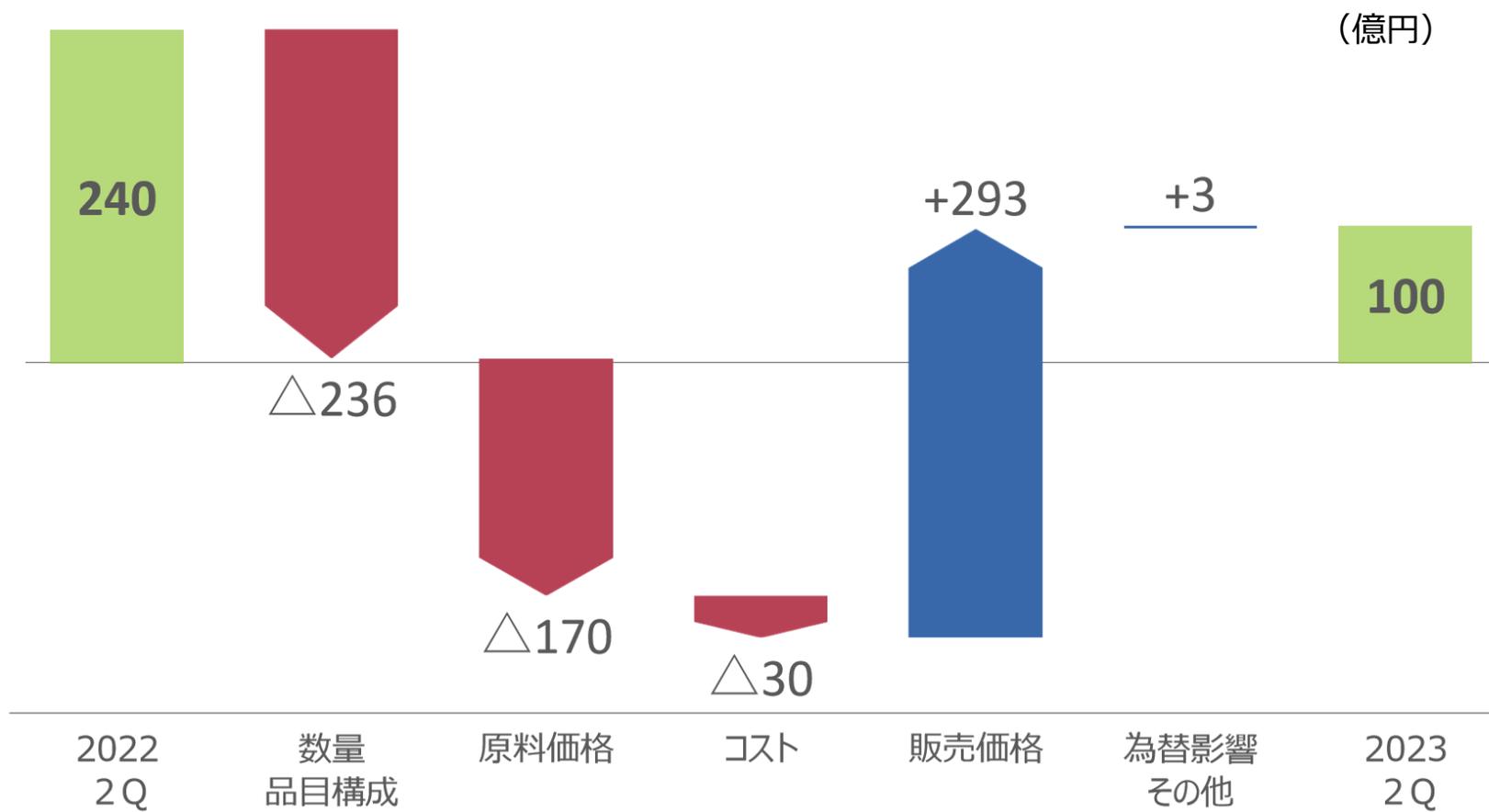
特別損益の内訳	2022 2Q	2023 2Q
特別利益		
固定資産売却益	9	5
投資有価証券売却益	4	-
特別損失		
減損損失	△ 10	△ 9
リストラ関連退職損失	△ 9	△ 8
固定資産処分損	△ 10	△ 6
事業撤退損	△ 5	-

■平均レート

	2022 2Q	2023 2Q
USD/円	123.25	135.88
EUR/円	134.89	146.91

営業利益増減要因

- 顔料製品の出荷数量が主要市場である欧州の景気減速により大幅に減少した。さらに電気・電子やモビリティに関連した高付加価値製品の出荷数量が減少したことにより、品目構成が悪化した



財務体質

(億円)	2022 期末	2023 2Q末	増減
ネット有利子負債	4,459	5,014	554
自己資本	3,870	4,201	331
ネットD/Eレシオ *	1.15倍	1.19倍	
自己資本比率	30.7%	31.3%	
1株当たり純資産 (円)	4,088.60	4,438.24	

* ネットD/Eレシオ： ネット有利子負債／自己資本

⚠ 運転資本の削減により、2023年度末のネット有利子負債は4,550億円に削減する計画

■ 期末レート

	2022 期末	2023 2Q末
USD/円	132.63	144.68

セグメント別業績

(億円)	売上高					営業利益					営業利益率	
	2022 2Q	2023 2Q	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2022 2Q	2023 2Q	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2022 2Q	2023 2Q
パッケージング&グラフィック	2,574	2,666	91	+ 3.5%	△1.3%	77	83	6	+ 7.7%	+ 6.8%	3.0%	3.1%
日本	627	614	△ 12	△2.0%	△2.0%	22	16	△ 6	△26.7%	△26.7%	3.6%	2.7%
米州・欧州	1,621	1,735	114	+ 7.0%	+ 0.1%	44	55	11	+ 25.4%	+ 24.4%	2.7%	3.2%
アジア他	408	389	△ 19	△4.6%	△8.1%	14	13	△ 0	△0.8%	△2.4%	3.3%	3.4%
連結調整	△ 81	△ 73	8	-	-	△ 3	△ 2	1	-	-	-	-
カラー&ディスプレイ	1,339	1,178	△ 160	△12.0%	△17.9%	78	△ 1	△ 79	赤字化	赤字化	5.8%	-
日本	193	165	△ 29	△14.8%	△14.8%	36	24	△ 12	△33.7%	△33.7%	18.7%	14.6%
海外	1,222	1,088	△ 135	△11.0%	△17.9%	41	△ 26	△ 67	赤字化	赤字化	3.4%	-
連結調整	△ 77	△ 74	3	-	-	△ 0	0	0	-	-	-	-
ファンクショナルプロダクツ	1,532	1,494	△ 39	△2.5%	△4.6%	133	67	△ 67	△50.0%	△51.8%	8.7%	4.5%
日本	1,076	1,008	△ 68	△6.3%	△6.3%	90	25	△ 65	△72.2%	△72.2%	8.3%	2.5%
海外	612	617	5	+ 0.9%	△4.4%	45	40	△ 4	△9.7%	△15.4%	7.3%	6.5%
連結調整	△ 155	△ 132	24	-	-	△ 1	1	2	-	-	-	-
その他、全社・消去	△ 231	△ 185	47	-	-	△ 48	△ 48	△ 0	-	-	-	-
連結合計	5,214	5,153	△ 61	△1.2%	△5.5%	240	100	△ 140	△58.4%	△58.3%	4.6%	1.9%
USD/円	123.25	135.88		+ 10.2%		123.25	135.88		+ 10.2%			
EUR/円	134.89	146.91		+ 8.9%		134.89	146.91		+ 8.9%			

パッケージング&グラフィック

売上高

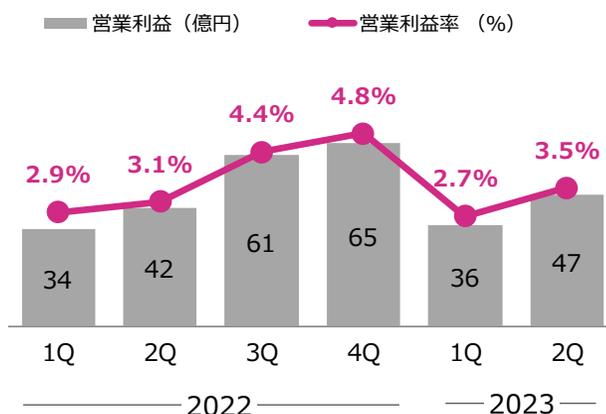
- 物価上昇の影響により消費財の需要が低調となり出荷数量が減少、日本とアジアでは減収となった
- 米州や欧州では数量は苦戦したものの販売価格の維持に努め、現地通貨ベースではほぼ前年並みとなった

営業利益

- 日本では高付加価値製品であるジェットインキの出荷数量が落ち込んだことに加え、パッケージ用インキや出版用インキのコスト増加分に対する価格対応が追い付かず減益となった
- 米州や欧州を中心に海外では販売価格の維持に努めた結果、全体として増益となった

(億円)	売上高					営業利益					営業利益率	
	2022 2Q	2023 2Q	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2022 2Q	2023 2Q	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2022 2Q	2023 2Q
パッケージング&グラフィック	2,574	2,666	91	+ 3.5%	△1.3%	77	83	6	+ 7.7%	+ 6.8%	3.0%	3.1%
日本	627	614	△ 12	△2.0%	△2.0%	22	16	△ 6	△26.7%	△26.7%	3.6%	2.7%
米州・欧州	1,621	1,735	114	+ 7.0%	+ 0.1%	44	55	11	+ 25.4%	+ 24.4%	2.7%	3.2%
アジア他	408	389	△ 19	△4.6%	△8.1%	14	13	△ 0	△0.8%	△2.4%	3.3%	3.4%
連結調整	△ 81	△ 73	8	-	-	△ 3	△ 2	1	-	-	-	-

四半期営業利益/営業利益率



主要製品の売上高推移

製品	増減比	説明
パッケージ用インキ*	+ 0%	物価上昇の影響を受け消費財の需要が低調となり各地域で出荷数量が減少した
出版用インキ*	△3%	米州や欧州とアジアで出荷数量が減少した
ジェットインキ	△3%	海外顧客の需要低迷により、減収
ポリスチレン	△11%	食品価格の値上がりにより食品包装用の需要が減少し、減収
多層フィルム	+ 8%	食品価格の値上がりにより食品包装用の需要が減少したが、価格改定による単価上昇により増収

*現地通貨ベース増減比

カラー&ディスプレイ

売上高

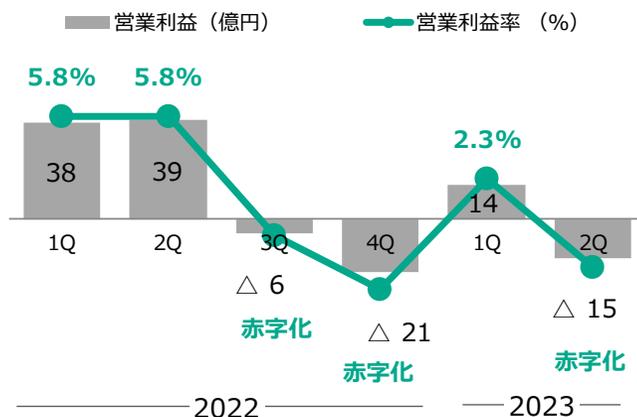
- 主要市場である欧州の景気減速に伴う需要減と顧客による在庫抑制の動きなどから、塗料用顔料やプラスチック用顔料を中心に出荷数量が減少し減収となった
- 塗料用顔料のうち、建築向けや工業向けの顔料は景気減速の影響を特に大きく受けた

営業利益

- 需要に合わせて工場の稼働調整等のコスト圧縮に努めたものの、出荷数量の落ち込みによる利益の減少をカバーしきれず大幅な減益

(億円)	売上高					営業利益					営業利益率	
	2022 2Q	2023 2Q	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2022 2Q	2023 2Q	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2022 2Q	2023 2Q
カラー&ディスプレイ	1,339	1,178	△ 160	△12.0%	△17.9%	78	△ 1	△ 79	赤字化	赤字化	5.8%	-
日本	193	165	△ 29	△14.8%	△14.8%	36	24	△ 12	△33.7%	△33.7%	18.7%	14.6%
海外	1,222	1,088	△ 135	△11.0%	△17.9%	41	△ 26	△ 67	赤字化	赤字化	3.4%	-
連結調整	△ 77	△ 74	3	-	-	△ 0	0	0	-	-	-	-

四半期営業利益/営業利益率



主要製品の売上高推移

製品	増減比	説明
顔料 塗料用	+ 3%	景気減速による需要減少が見られ、出荷数量が落ち込んだが円安による為替換算影響により増収
プラスチック用	+ 3%	景気減速による需要減少が見られ、出荷数量が落ち込んだが円安による為替換算影響により増収
インキ用	△15%	景気減速による需要減少が見られ、出荷数量が落ち込んだ
化粧品用	+ 19%	米国や欧州などでは景況感の悪化により伸び悩んだが、アジアでは引き続き需要が回復した
ディスプレイ用	+ 1%	パネルの在庫調整が終了し、出荷数量は平常ベースに回復
スペシャリティ用	+ 4%	農業向けの在庫調整に加え、建築向けは欧州で出荷数量が減少したが、為替換算影響により増収
ヘルスケア食品	△18%	欧米の景気減速により需要が減少した

ファンクショナルプロダクツ

売上高

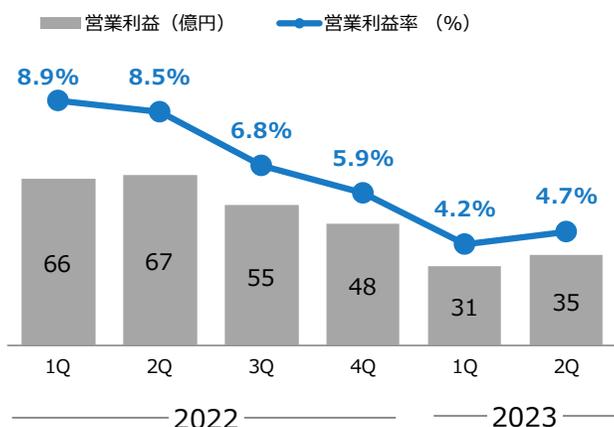
- 電気・電子やディスプレイを中心としたデジタル分野で大幅に出荷が減少した
- 自動車生産の回復にともなって一部の製品で出荷数量の回復傾向が見られた。しかし全体としては、サプライチェーン上の余剰在庫が解消しきれていない状況が続き、出荷数量は低調に推移した

営業利益

- コスト増加分に対する価格対応に努めたが、高付加価値製品の出荷が落ち込んだことで品目構成が悪化し、大幅な減益

(億円)	売上高					営業利益					営業利益率	
	2022 2Q	2023 2Q	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2022 2Q	2023 2Q	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2022 2Q	2023 2Q
ファンクショナルプロダクツ	1,532	1,494	△ 39	△2.5%	△4.6%	133	67	△ 67	△50.0%	△51.8%	8.7%	4.5%
日本	1,076	1,008	△ 68	△6.3%	△6.3%	90	25	△ 65	△72.2%	△72.2%	8.3%	2.5%
海外	612	617	5	+ 0.9%	△4.4%	45	40	△ 4	△9.7%	△15.4%	7.3%	6.5%
連結調整	△ 155	△ 132	24	-	-	△ 1	1	2	-	-	-	-

四半期営業利益/営業利益率



主要製品の売上高推移

製品名	増減比	製品名	増減比
エポキシ樹脂	△19%	PPSコンパウンド	+ 9%
ウレタン樹脂	△10%	工業用テープ	△6%
アクリル樹脂*	+ 49%	中空糸膜モジュール	+ 4%
水性樹脂*	+ 6%		
ポリエステル樹脂*	+ 6%		
UV硬化型樹脂	△10%		

デジタル関連は、半導体市場の低迷によりエポキシ樹脂の出荷数量が落ち込んだ。工業用テープは、スマートフォンなどのモバイル機器の需要低迷により出荷が減少した。PPSコンパウンドは自動車用途で緩やかな回復が見られたものの、ウレタン樹脂、アクリル樹脂、水性樹脂等のその他の自動車向け材料の出荷は低調に推移した

* 2022年7月に買収した中国のコーティング用樹脂メーカー「Guangdong DIC TOD Resins Co., Ltd.」の売上が加わり増収

2023年度：通期の業績見通し

- 需要の回復に当初見通しよりも時間を要することから、下方修正

(億円)	2022	2023 見通し	増減比	現地通貨 ベース 増減比	前回見通し	2022	2023 見通し
売上高	10,542	10,600	+ 0.6%	△1.6%	11,000	ROIC*2	3.6% 2.0%
営業利益	397	250	△37.0%	△35.4%	380	ネットD/Eレシオ *3	1.15倍 1.09倍
営業利益率	3.8%	2.4%	-	-	3.5%	年間配当/株 (円)	100.0 80.0
経常利益	399	200	△49.9%		340	配当性向	53.7% 189.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	176	40	△77.3%		170		
1株当たり純利益 (円)	186.05	42.26	-		179.59		
EBITDA*1	855	700	△18.1%		830		
設備投資・投融資	811	827	+ 2.0%		695		
減価償却費・のれん償却額	488	500	+ 2.5%		490		
平均レート							
	USD/円	130.59	+ 7.2%		133.00		
	EUR/円	137.71	+ 9.7%		143.00		

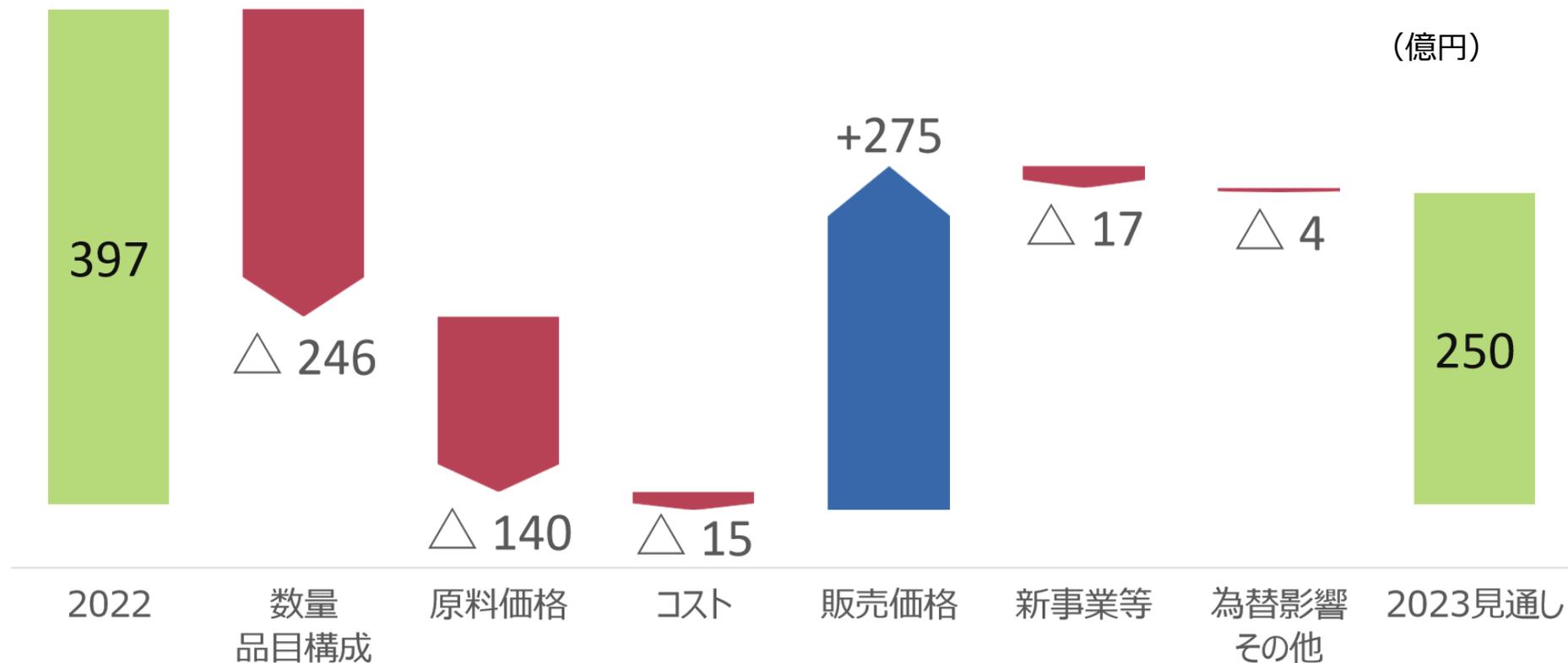
*2ROIC：営業利益×（1-実効税率28%）/（ネット有利子負債+純資産）

*3ネットD/Eレシオ： ネット有利子負債/自己資本

*1EBITDA：親会社株主に帰属する当期純利益+法人税等合計+支払利息-受取利息+減価償却費+のれん償却額

2023年度：営業利益増減要因

- 顔料製品の出荷数量減少とファンクショナルプロダクツの高付加価値製品の出荷数量減少により、数量品目構成が悪化
- 8月9日発表時点の前提となる原油価格（WTI）は\$70近辺を想定
- 当初計画よりもユーティリティや物流費の減少があったものの、数量の落ち込みをカバーできず減益となる見通し



2023年度：通期のセグメント別業績見通し

(億円)	売上高					営業利益					営業利益率	
	2022	2023 見通し	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2022	2023 見通し	増減	増減比	現地通貨 ベース 増減比	2022	2023 見通し
パッケージング&グラフィック	5,330	5,456	126	+ 2.4%	+ 0.1%	203	200	△ 3	△1.5%	△1.1%	3.8%	3.7%
日本	1,277	1,252	△ 25	△2.0%	△2.0%	42	45	3	+ 6.4%	+ 6.4%	3.3%	3.6%
米州・欧州	3,374	3,520	146	+ 4.3%	+ 1.5%	127	115	△ 12	△9.5%	△7.5%	3.8%	3.3%
アジア他	841	839	△ 3	△0.3%	△3.9%	34	40	6	+ 17.6%	+ 13.0%	4.1%	4.8%
連結調整	△ 162	△ 155	7	-	-	△ 0	0	0	-	-	-	-
カラー & ディスプレイ	2,482	2,405	△ 77	△3.1%	△6.8%	51	△ 16	△ 67	赤字化	赤字化	2.1%	-
日本	347	341	△ 6	△1.8%	△1.8%	47	51	4	+ 8.9%	+ 8.9%	13.5%	15.0%
海外	2,271	2,202	△ 69	△3.1%	△7.3%	3	△ 68	△ 71	赤字化	赤字化	0.1%	-
連結調整	△ 137	△ 138	△ 1	-	-	1	0	△ 1	-	-	-	-
ファンクショナルプロダクト	3,154	3,142	△ 12	△0.4%	△1.8%	236	178	△ 58	△24.7%	△26.3%	7.5%	5.7%
日本	2,169	2,047	△ 122	△5.6%	△5.6%	147	90	△ 57	△39.1%	△39.1%	6.8%	4.4%
海外	1,288	1,351	63	+ 4.9%	+ 1.4%	89	88	△ 1	△1.1%	△5.2%	6.9%	6.5%
連結調整	△ 303	△ 256	47	-	-	△ 0	0	0	-	-	-	-
その他、全社・消去	△ 424	△ 403	21	-	-	△ 94	△ 112	△ 18	-	-	-	-
連結合計	10,542	10,600	58	+ 0.6%	△1.6%	397	250	△ 147	△37.0%	△35.4%	3.8%	2.4%
USD/円	130.59	140.00		+ 7.2%		130.59	140.00		+ 7.2%			
EUR/円	137.71	151.00		+ 9.7%		137.71	151.00		+ 9.7%			

主なトピックス (2023年5月～2023年8月)

ニュースリリース
<https://www.dic-global.com/ja/news/2023/>

5月

英国の印刷会社Qualvis社と共同でチョコレートメーカーに向けたサステナブルな食品用パッケージソリューションを開発

- リサイクル性の高い紙ベースのパッケージに、食品と直接接触が可能なインキや水性ニスを使用したソリューションを提供



◀ サステナブルなソリューションを用いた新たなチョコレート用パッケージ

5月

DICグループ国内32拠点で再生可能エネルギー由来電力の導入を開始

- これにより、年間約7.7万トンのCO₂排出量（DICグループの国内事業所で排出するCO₂（Scope1+Scope2）の約38%に相当）を削減する見通し

6月

カナダの半導体フォトレジストポリマーメーカーPCAS Canada Inc.社を買収 ※詳細はP.24-26をご参照ください

6月

廃棄軟包装フィルムを再資源化した着色自在の原料が梱包用バンド・仮設資材に採用

- ブランドオーナーや加工メーカーから回収した廃棄軟包装フィルムを対象に脱インキ技術を用いることで、再生ペレット（プラスチック樹脂）の混色を防ぎ、新たな用途へ再生させる取り組み



◀ 従来のマテリアルリサイクルのプロセスで再生された暗色系ペレット



脱インキ技術を用いて再生された着色可能なペレット▶

主なトピックス (2023年5月～2023年8月)

ニュースリリース
<https://www.dic-global.com/ja/news/2023/> 

6月

「SOMPOサステナビリティ・インデックス」構成銘柄に8年連続で選定



6月

環境配慮型水系ウレタン樹脂の新製品「HYDRAN™ GPシリーズ」販売開始

- 溶剤系と同等の高性能を実現。グローバルで合成皮革・人工皮革、塗料、接着剤用途などに展開し、2030年に売上高100億円を目指す

7月

企業情報を紹介する統合報告書『DICレポート2023』を発行

HOME> サステナビリティ> DICレポート（統合報告書） <https://www.dic-global.com/ja/csr/annual/> 

7月

D I Cと四日市市、「脱炭素社会の実現及び継続的な産業振興の両立に関する包括連携協定」を締結

- 当社の四日市工場では主に食品容器などに用いられるポリスチレンを生産
- 食品容器のリサイクル実証実験や環境教育などを共同実施

8月

環境配慮型の高性能PFASフリー界面活性剤「MEGAFACE® EFSシリーズ」を開発

- 環境負荷を軽減しつつフッ素系製品と同等以上の性能を実現した革新的な界面活性剤
- ディスプレイ、半導体、自動車、塗料など広範な用途をターゲットに2030年に売上高50億円を目指す

8月

住宅材料（ハウスメーカー向け収納、建具、造作部および住宅設備機器メーカー向けの化粧板）の製造および販売に関する事業を譲渡することを決定

事業セグメントと主要製品

2022年度実績数値

提供価値

パッケージング&グラフィック



売上高
5,330億円



営業利益・率
203億円
3.8%

包装材料を通じて社会や暮らしに「安全・安心」を提供する

カラー&ディスプレイ



売上高
2,482億円



営業利益・率
51億円
2.1%

表示材料を通じて社会や暮らしに「彩り」を提供する

ファンクショナルプロダクツ



売上高
3,154億円

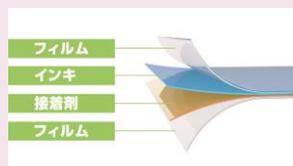


営業利益・率
236億円
7.5%

機能材料を通じて社会や暮らしに「快適」を提供する

主要製品

パッケージ用インキ



包装材料

←ポリスチレン
↓多層フィルム

接着剤



ジェットインキ



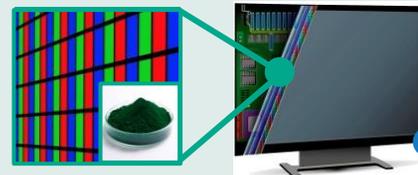
屋外看板用途



バナー用途



ディスプレイ用顔料



化粧品用顔料



スペシャリティ用顔料



農業用途



建材用途

天然系色素



塗料用顔料

プラスチック用顔料

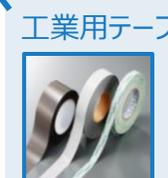
インキ用顔料



◆電気・電子やディスプレイを中心とするデジタル分野◆



UV硬化型樹脂



工業用テープ



エポキシ樹脂

中空糸膜モジュール



◆モビリティ（自動車など）を中心とする工業分野◆

水性樹脂
アクリル樹脂

ウレタン樹脂
ポリエステル樹脂

PPSコンパウンド



セグメント別四半期業績推移 (参考)

(億円)	売上高						営業利益					
	2022 1Q	2022 2Q	2022 3Q	2022 4Q	2023 1Q	2023 2Q	2022 1Q	2022 2Q	2022 3Q	2022 4Q	2023 1Q	2023 2Q
パッケージング & グラフィック	1,209	1,366	1,399	1,357	1,315	1,350	34	42	61	65	36	47
日本	298	328	328	322	304	311	8	15	12	8	5	12
米州・欧州	753	868	891	862	862	873	21	23	39	44	26	29
アジア他	195	213	219	215	190	199	6	8	8	12	7	7
連結調整	△ 37	△ 44	△ 39	△ 42	△ 40	△ 33	0	△ 3	2	1	△ 1	△ 1
カラー & ディスプレイ	662	676	614	530	605	574	38	39	△ 6	△ 21	14	△ 15
日本	91	102	79	75	81	83	15	21	5	6	10	14
海外	610	613	569	480	555	533	24	17	△ 11	△ 27	4	△ 29
連結調整	△ 38	△ 38	△ 34	△ 26	△ 31	△ 42	△ 1	1	0	0	0	0
ファンクショナルプロダクト	742	791	813	809	734	759	66	67	55	48	31	35
日本	520	556	538	555	500	508	43	46	33	24	11	13
海外	295	317	352	324	298	319	23	22	22	23	19	21
連結調整	△ 73	△ 82	△ 78	△ 70	△ 64	△ 68	0	△ 1	0	1	0	1
その他、全社・消去	△ 103	△ 128	△ 88	△ 105	△ 102	△ 83	△ 21	△ 27	△ 22	△ 24	△ 21	△ 27
連結合計	2,510	2,705	2,737	2,590	2,552	2,601	117	122	89	68	60	40

連結貸借対照表 (参考)

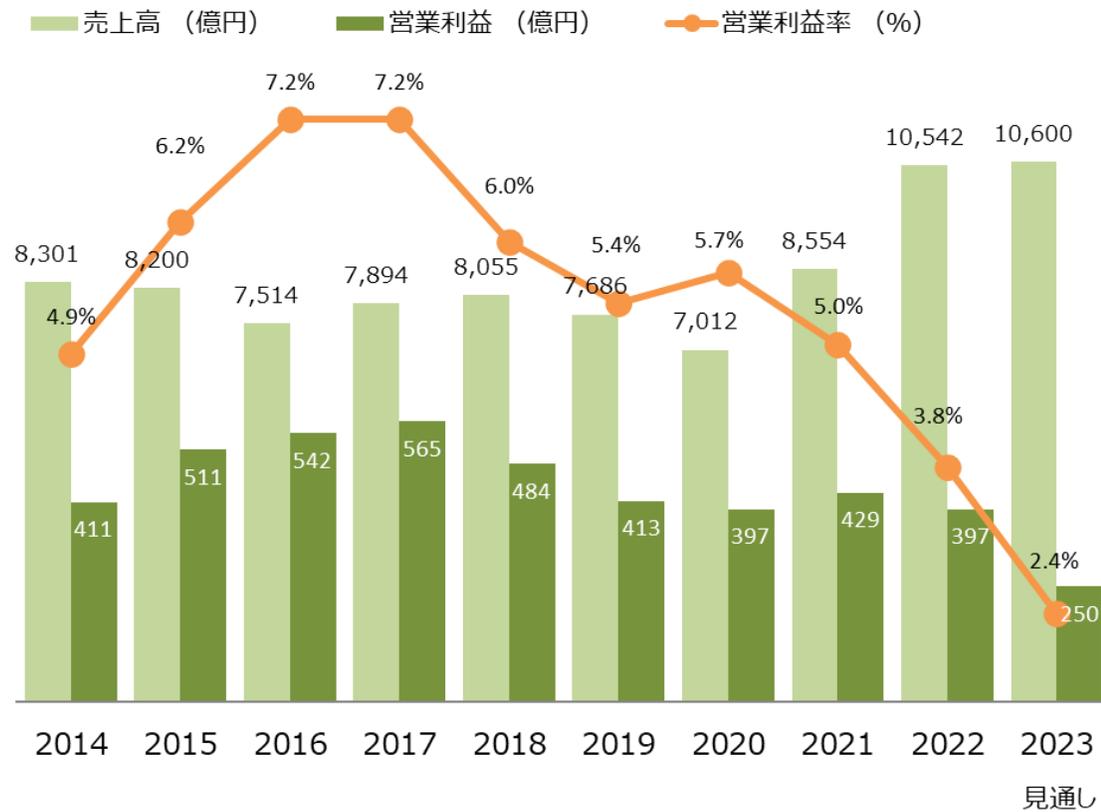
(億円)	2022 期末	2023 2Q末	増 減
流動資産	6,600	6,877	277
有形固定資産	3,535	3,815	280
無形固定資産	788	945	157
投資その他の資産	1,694	1,776	83
資産合計	12,616	13,413	796
流動負債	3,899	3,896	△ 2
固定負債	4,507	4,964	457
負債合計	8,405	8,860	455
株主資本	4,118	4,081	△ 37
その他の包括利益累計額 (為替換算調整勘定)	△ 248 (△ 173)	120 (233)	368 (405)
非支配株主持分	341	351	10
純資産合計	4,211	4,552	341
負債純資産合計	12,616	13,413	796
有利子負債残高	5,093	5,756	663
現預金残高	634	742	108
ネット有利子負債	4,459	5,014	554

連結キャッシュ・フロー計算書（参考）

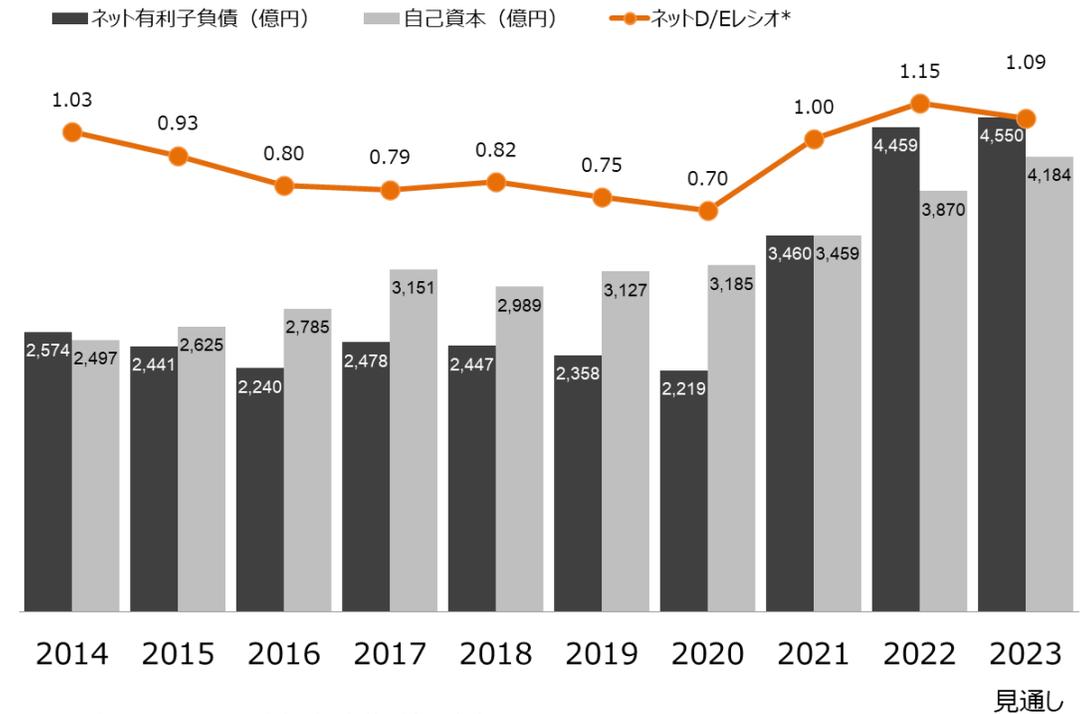
(億円)	2022 2Q	2023 2Q	増 減
営業キャッシュ・フロー	△ 248	72	320
投資キャッシュ・フロー	△ 331	△ 452	△ 120
財務キャッシュ・フロー	1,062	471	△ 591
現金及び現金同等物の期末残高	988	725	△ 264
フリーキャッシュ・フロー	△ 579	△ 380	199
運転資本の増減額	△ 486	△ 45	441
設備投資・投融資	348	455	107
減価償却費・のれん償却額	233	253	21

業績の推移 (参考)

業績



財務体質

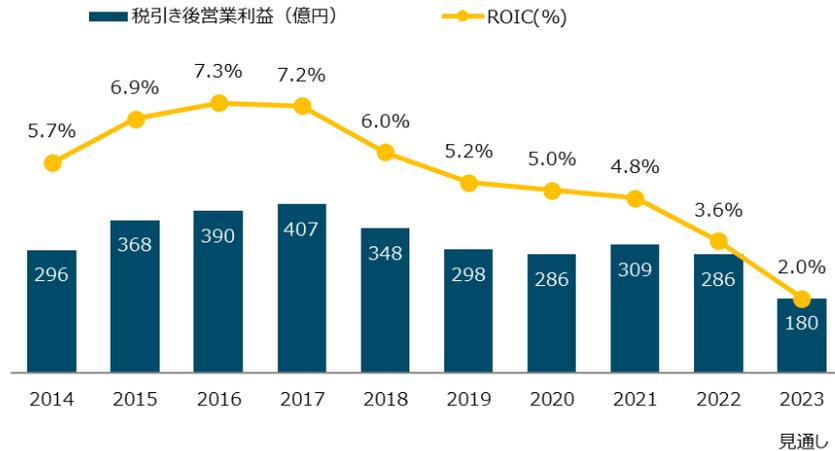


* ネットD/Eレシオ： ネット有利子負債 / 自己資本

業績の推移 (参考)

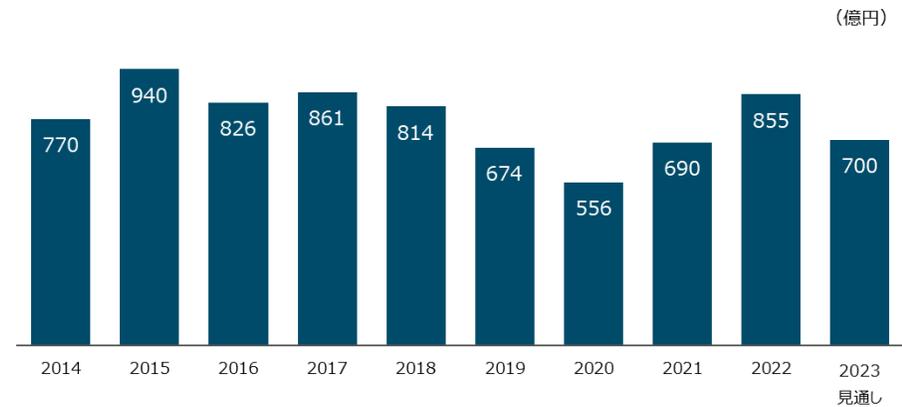
ROIC*

*ROIC : 営業利益 × (1 - 実効税率28%) / (ネット有利子負債 + 純資産)

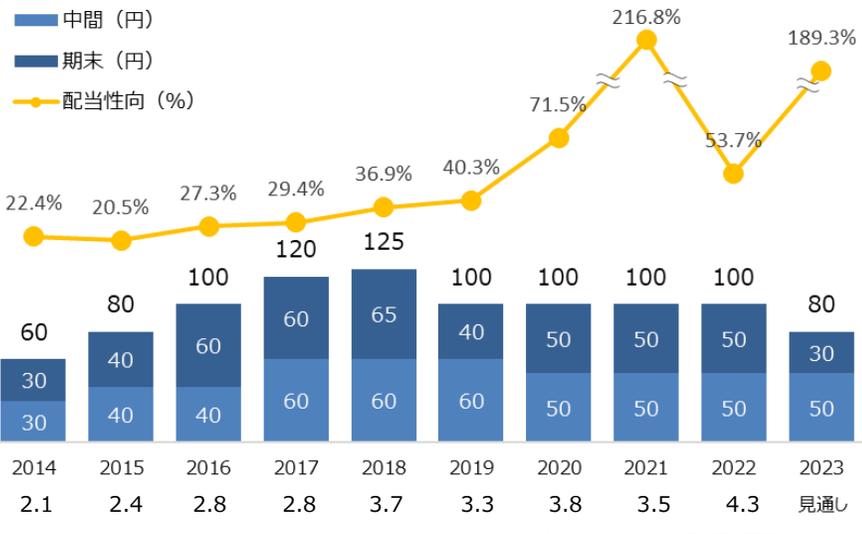


EBITDA*

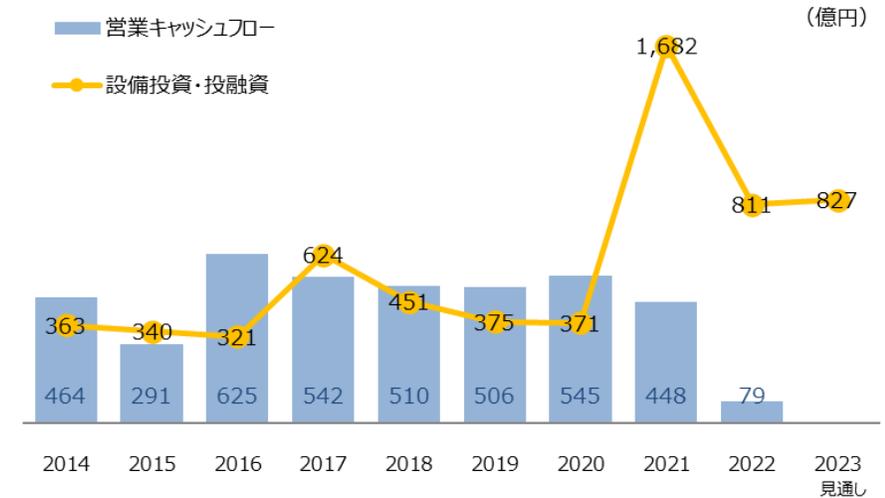
*EBITDA : 親会社株主に帰属する当期純利益 + 法人税等合計 + 支払利息 - 受取利息 + 減価償却費 + のれん償却額



株主還元*



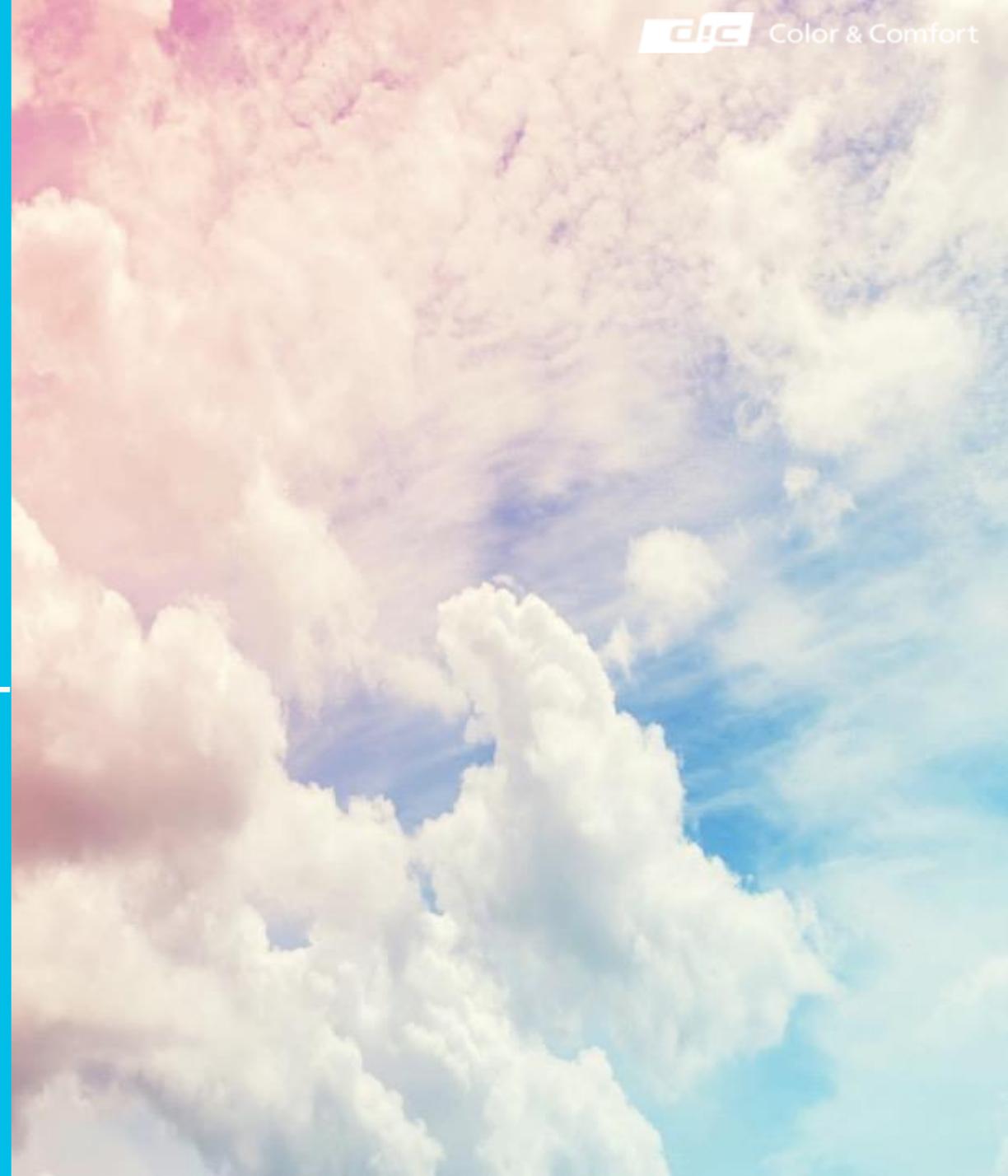
設備投資・投融資・営業キャッシュフロー



* 株式併合の影響を調整しています

** 配当利回り : 年間配当金/期末の株価終値

企業価値向上に向けた取り組み



企業価値向上に向けた取り組み

長期経営計画「DIC Vision 2030」

市場成長性・社会に対する影響度を基準に当社の強みを活かせる5つの重点事業領域を設定

▶ サステナブルエネルギー領域 ▶ ヘルスケア領域 ▶ スマートリビング領域 ▶ カラーサイエンス領域 ▶ サステナブルパッケージ領域

- 引き続き、重点事業領域へのポートフォリオ変革を推進し、需要回復局面で成果を最大限享受する
- 限られた経営資源を重点事業領域へ振り向ける



1. 重点事業領域での事業拡大による収益性の改善

2. 構造改革事業への対応、低収益事業/ノンコア事業からの撤退、資産売却

1. 重点事業領域での事業拡大による収益性の改善

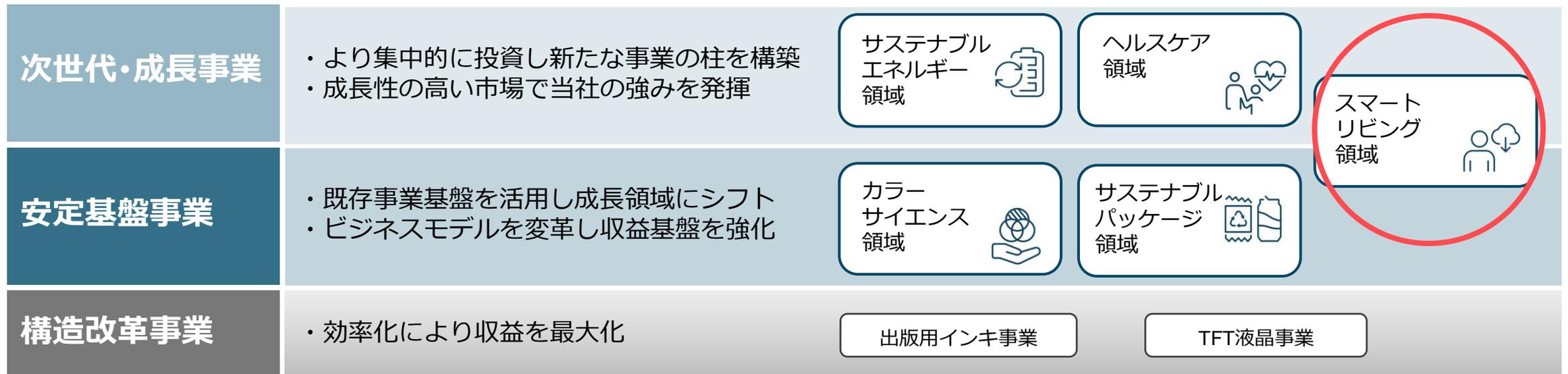
● 5つの重点事業領域のうちの「スマートリビング領域」では、次世代半導体用樹脂の事業拡大を目指す

- 2023年6月、半導体フォトレジストポリマーにおいて**10%超**のグローバルシェアを持つPCAS-Canada社（PCAS-C）を買収
- 2030年までにフォトレジストポリマーの売上高を**約150億円**まで伸ばし、エポキシ樹脂に次ぐデジタル分野の主力事業とする

PCAS Canada社（※）

- 所在地：カナダ ケベック州
- 売上高：32百万カナダドル（2022年度実績）
- 従業員数：87名（2023年3月末時点）
- 事業内容：半導体フォトレジストポリマーの製造・販売

※買収後、Innovation DIC Chimitroniques Inc.に社名変更



半導体製造工程に関連する当社製品

◆フォトレジストポリマー：

フォトレジストの主成分である特殊な**ポリマ（高分子化合物）**。その特性によって、フォトレジストでシリコンウェハー等に微細なパターンを形成することが可能になり、高度な電子機器の製造が実現される。

■ 半導体フォトレジストのサプライチェーンおよび市場規模

フォトレジストポリマーメーカー

- **DIC / PCAS-C**
- 丸善石油化学
- 群栄化学工業
- 日本曹達
- 住友パークライト
- DuPont

他



フォトレジストメーカー

- 東京応化工業
- JSR
- 信越化学工業
- DuPont
- 住友化学
- 富士フィルム

他



半導体メーカー

- TSMC
- サムスン電子
- Intel
- SKハイニックス
- キオクシア

他

市場規模 約2,000億円
(2021年度)

フォトレジスト市場は年平均**10%**の成長が推定されており、材料となるフォトレジストポリマーも同様の成長が見込まれる

※出典：富士経済

半導体製造工程・前工程

1. 成膜
2. ウェハーに**フォトレジスト**を塗布
3. 露光・現像
4. エッチング
5. レジスト剥離・洗浄
6. イオン注入
7. 平坦化
8. 電極形成
9. ウェハー検査



半導体製造工程・後工程

1. ダイシング
2. ワイヤーボンディング
3. モールドイング
4. 最終検査

◆界面活性剤：

液体を均一に塗布するためにフォトレジストの添加剤として使用。フッ素系製品と同等の性能を実現したPFASフリー界面活性剤を開発した

◆中空糸膜モジュール

(超純水用帯電防止装置)：前工程における洗浄（1.成膜の前後、4.エッチング後、5.レジスト剥離後の洗浄）において使用されている。後工程では1.ダイシング時の切削水に使用されている

◆エポキシ樹脂：

半導体封止材用のエポキシ樹脂は、当社のデジタル分野における主力製品のひとつ

PCAS-C社 買収の効果

PCAS-C

半導体フォトレジストポリマーに求められる低金属化・高純度化を実現する業界最高位レベルの製造技術と量産ノウハウ

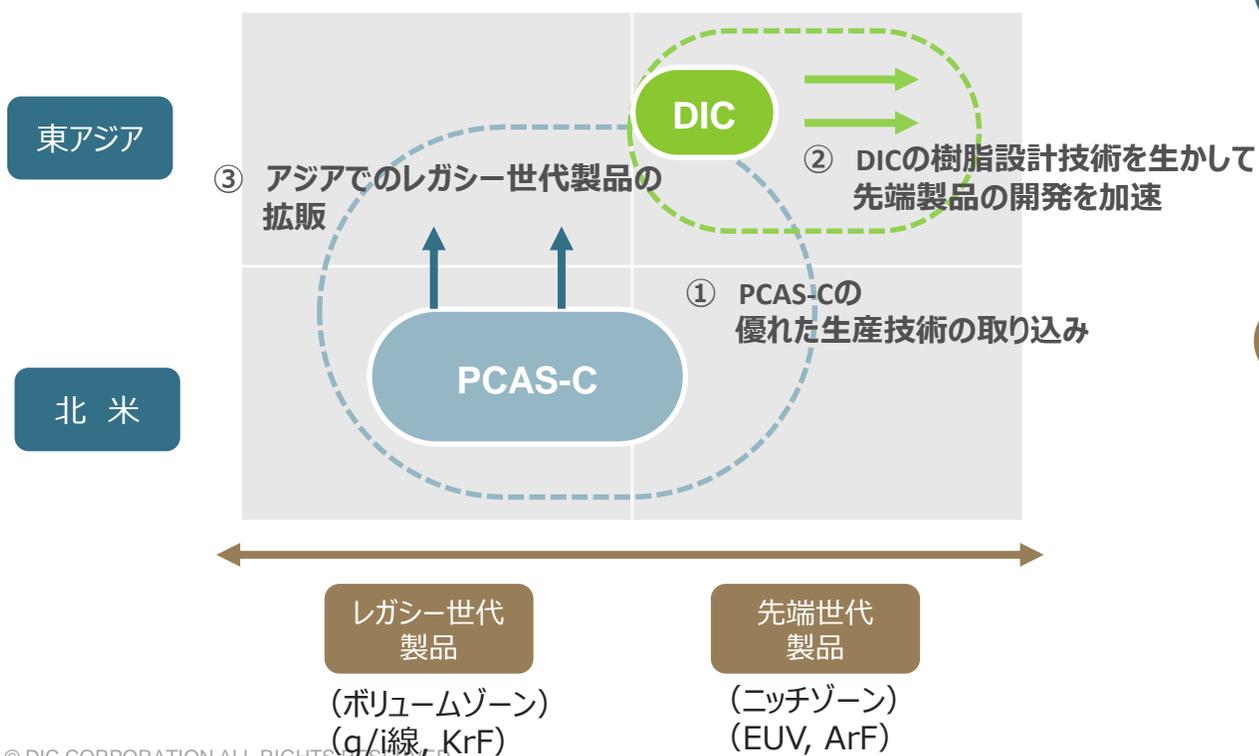
DIC

精密合成技術による先端世代製品の開発力



- 半導体前工程への事業進出を加速
- 半導体の微細化にともなう材料の高純度化要求に応え、フォトレジストメーカーにとっての第1選択肢となることを目指す

【地域別・製品別の売上マトリクスのイメージ】



地域的なシナジー

- デカップリングによる半導体材料の地産地消ニーズの高まり → 北米の製造拠点は競争力の源泉となる
- 東アジアにおけるDICの顧客基盤を活用した売上シナジー

技術的シナジー

- PCAS-Cの量産ノウハウとDIC独自の樹脂設計技術を融合し、先端世代製品の開発と量産化を加速
- ボリュームゾーンとなるレガシー世代製品の需要は引き続き拡大。PCAS-Cの差別化された製品によりシェアアップを図る

2. 構造改革事業への対応、低収益事業/ノンコア事業からの撤退、資産売却

● 構造改革事業への対応

- 国内の出版用インキ事業において、顧客への供給責任を果たしつつ、市場規模の縮小を見据えた生産効率化を実施・検討することで収益力強化を図る

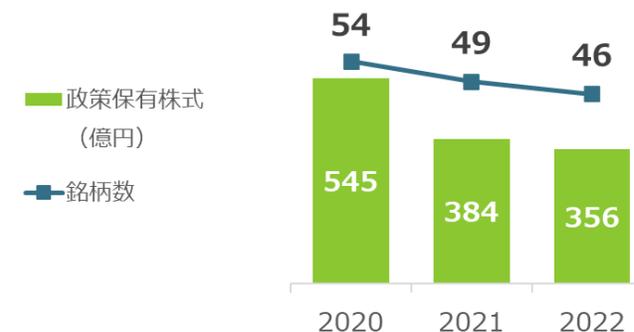
● 低収益事業/ノンコア事業からの撤退

- 取締役会において事業撤退基準にもとづく事業評価を毎年実施。事業環境の変化により当社の競争力を維持することが困難な事業からは撤退し、経営資源を重点事業領域へ振り向けていく
 - ✓ 2023年 6月、アルキルフェノール製品グループにおけるPTBP事業から撤退
 - ✓ 2023年10月、住宅材料の製造販売事業を譲渡
- 上記を含め、ファンクショナルプロダクツにおいて2022~2023年で売上高約200億円相当の事業を見直し、撤退を計画

● 政策保有株式の縮減

- 取締役会において保有意義の検証を行い、継続的に削減に努めている
- 2022年度末時点で純資産に対する政策保有株式の比率は、8%
- 2026年度まで純資産に対する比率を4%以下とすることを目標とする

※政策保有株式には見なし保有株式を含む
 ※非上場株式は含めていない



● その他資産の圧縮

- インキ事業の合理化に伴う固定資産の売却等によるキャッシュイン約50億円を戦略投資へ活用

<予想に関する注意事項>

本資料は、情報の提供を目的としており、いかなる勧誘行為を行うものではありません。
業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき、当社の経営者が判断した見通しですが、
実際の売上高及び利益は、記載している予想数値とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

当社は、業績見通しの正確性・完全性に関する責任を負うものではありません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。

本資料に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、
当社は責任を負うものではありません。



Color & Comfort



DIC Corporation